



2023年度第3四半期 決算説明会

エーザイ株式会社

2024年2月6日

2023年度第3四半期 連結業績 (IFRS)

レンビマとデエビゴの成長と適切な費用コントロールにより 増収・営業増益を達成

(億円、%)	2022年度4-12月		2023年度4-12月			為替の 影響額
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	
売上収益	5,462	100.0	5,513	100.0	101	136
医薬品事業 売上収益	5,319	97.4	5,281	95.8	99	124
その他事業 売上収益	143	2.6	232	4.2	162	
売上原価	1,393	25.5	1,192	21.6	86	
売上総利益	4,069	74.5	4,320	78.4	106	128
研究開発費	1,214	22.2	1,245	22.6	103	63
パートナー負担額を加味した研究開発費	1,751	32.1	1,703	30.9	97	
販売管理費	2,730	50.0	2,710	49.2	99	56
レンビマ利益折半費用	914	16.7	1,034	18.8	113	
レケンビ利益折半費用(戻入)	-59	-	-178	-	303	
その他の販売管理費	1,874	34.3	1,854	33.6	99	
その他の損益	13	0.2	10	0.2	80	
費用合計*1	3,931	72.0	3,945	71.6	100	119
営業利益	138	2.5	375	6.8	272	9
当期利益	409*2	7.5	308	5.6	75	
当期利益(親会社所有者帰属)	391*2	7.2	291	5.3	74	
ROE (%)	6.8*2		4.8			
	2023年3月末実績		2023年12月末実績			
Net DER*3(倍)	-0.21		-0.17			
親会社所有者帰属持分比率(%)	63.3		62.5			

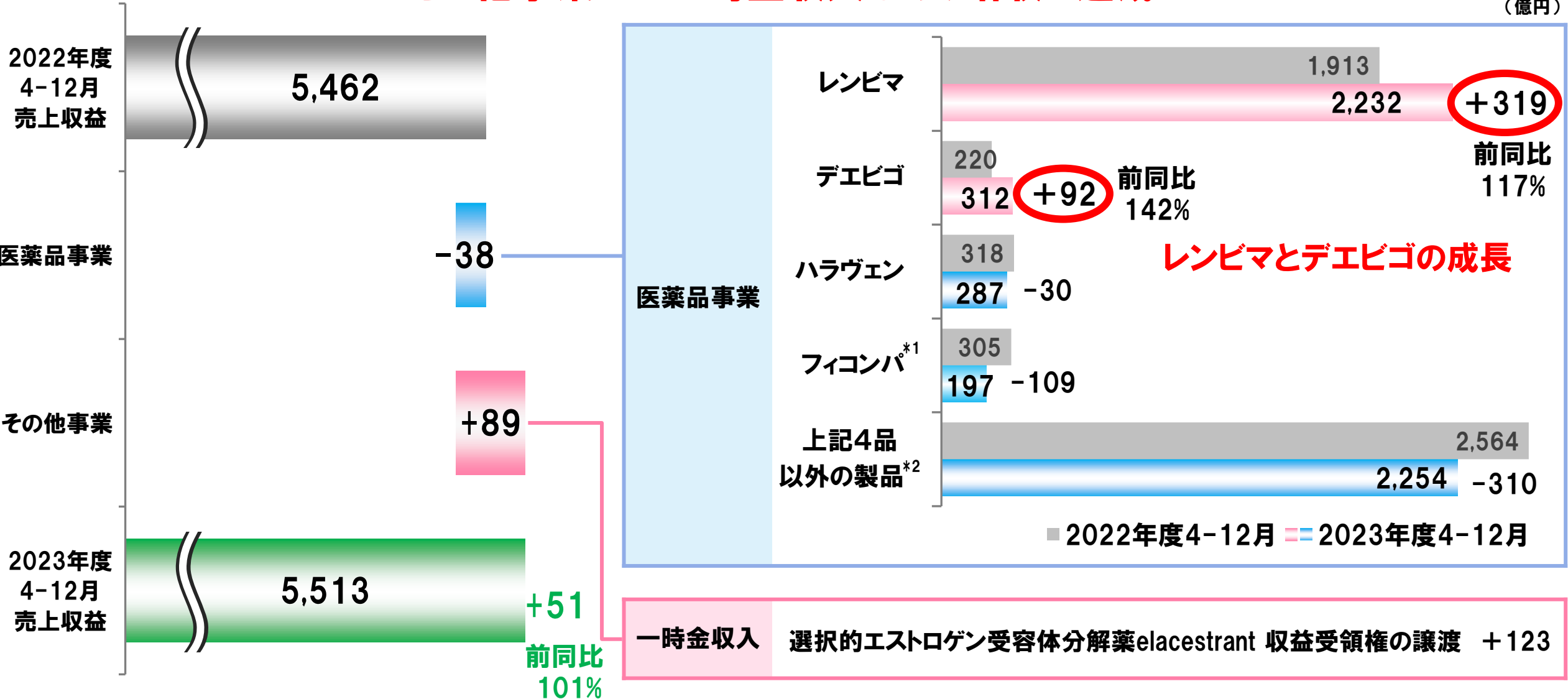
2023年度第3四半期中平均レート 米ドル:143.29円(前期変動率+5.0%)、ユーロ:155.29円(同+10.5%)、英ポンド:179.51円(同+9.5%)、人民元:19.98円(同+0.6%) *1 研究開発費+販売管理費-その他の損益

*2 米国子会社から払込資本の払戻しによる影響等を含む *3 Net Debt Equity Ratio=(有利子負債(借入金)-現金及び現金同等物-3ヵ月超預金等-親会社保有投資有価証券)÷親会社の所有者に帰属する持分

売上収益の増減要因分析

医薬品事業でのレンビマとデエビゴの成長に加え
 その他事業での一時金収入もあり増収を達成

(億円)

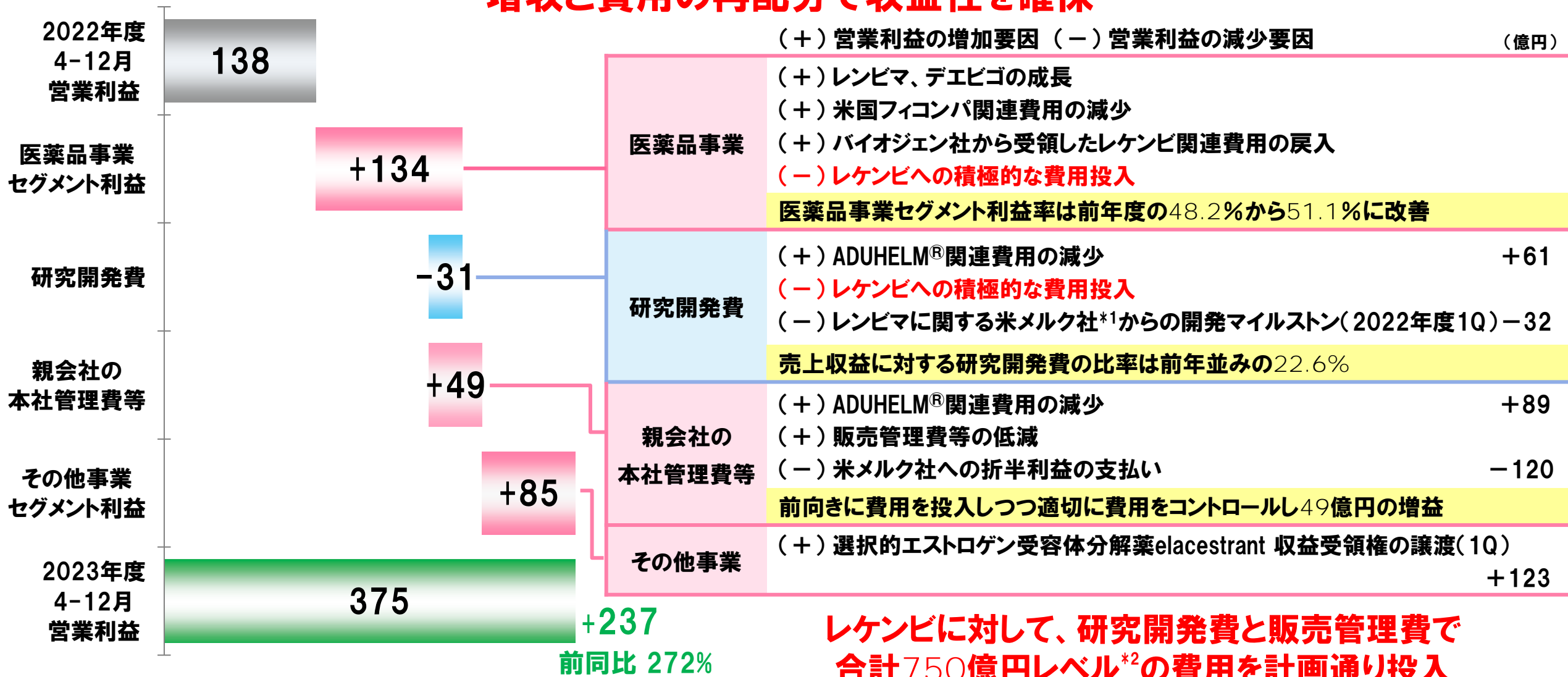


*1 2023年1月に米国での権利をCatalyst Pharmaceuticals, Inc.に譲渡

*2 ヒュミラは、2023年6月にアツヴィ合同会社との日本での開発および販売契約満了

営業利益の増減要因分析

レケンビへの積極的な費用投入を継続しつつ
増収と費用の再配分で収益性を確保



数値は概数

*1 Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA *2 エーザイおよびBiogen Inc.が負担する販売管理費および研究開発費の合計金額

2023年度 連結業績見通し (IFRS)

(億円、%)	2022年度		2023年度		
	実績	売上比	見通し	売上比	前期比
売上収益	7,444	100.0	7,410	100.0	100
医薬品事業 売上収益	6,844	91.9	6,900	93.1	101
その他事業 売上収益	600	8.1	510	6.9	85
売上原価	1,778	23.9	1,545	20.9	87
売上総利益	5,666	76.1	5,865	79.1	104
研究開発費	1,730	23.2	1,660	22.4	96
販売管理費	3,583	48.1	3,740	50.5	104
その他の損益	48	0.6	45	0.6	94
営業利益	400	5.4	510	6.9	127
当期利益	568*	7.6	430	5.8	76
当期利益(親会社所有者帰属)	554*	7.4	415	5.6	75
EPS(円)	193.3		145.3		
ROE(%)	7.2*		5.1		
DOE(%)	5.9		5.6		
配当金(円)	160		160		

2023年11月7日公表

2023年11月7日開催の取締役会において中間配当金80円を決議

2022年度期中平均レート 米ドル:135.46円、ユーロ:140.96円、英ポンド:163.15円、人民元:19.74円

2023年度第1~3四半期中平均レート 米ドル:143.29円、ユーロ:155.29円、英ポンド:179.51円、人民元:19.98円

2023年度第4四半期中平均予想レート 米ドル:148.00円、ユーロ:157.00円、英ポンド:177.50円、人民元:20.10円

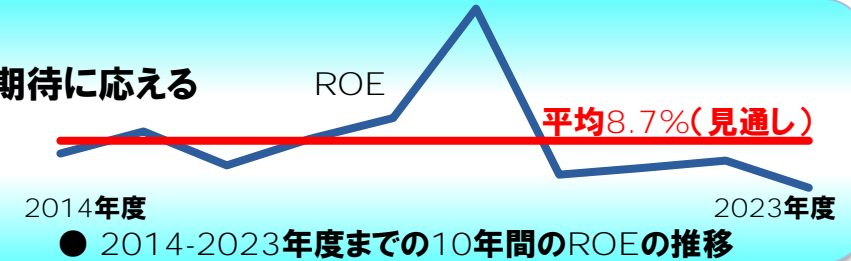
* 米国子会社から払込資本の払戻しによる影響等を含む

中長期的な企業価値の最大化に向けた財務戦略

当社の本源的価値 = 財務的価値 + 社会的インパクト

財務的価値

- 2023年までの10年平均PBR3.2倍超*1、10年平均PERは40倍超*2
- ⇒ 短期志向に陥ることなくレケンビへの積極的な投資を実行し、投資家の皆様の期待に応える
- 2023年度ROEは5.1%の見通し、2023年度までの10年平均ROEは8.7%
- ⇒ 少なくとも10年平均ROEで正のエクイティスプレッドの創出をめざす
レケンビによる急成長にあたってはDOEを柔軟に高めROEを向上



社会的インパクト

- 一時的な要因で営業利益は大きく変動も、中長期的に人財・研究開発・知財への投資(人件費+研究開発費)*3を継続
- 人件費・研究開発費控除前営業利益(ESG EBIT)は役員報酬の評価指標のひとつ
- ⇒ 持続的な成長のための非財務資本の強化とリスクの低減を推進
- 新たな企業の評価軸としての社会的インパクトの定量化を推進
(レケンビ・DEC錠の社会的インパクト、従業員インパクト)
- 価値創造基盤の充実(Diversity, Equity & Inclusion)
- ⇒ 社会善の実現状況およびビジネスモデルの持続可能性を明示



資本コスト

- 社会的インパクト創出への取り組みと積極的な開示
- ⇒ 将来の不確実性を低下させ株主資本コストを低減

- サステナビリティ・リンク・ローンにより低金利での資金調達
- ⇒ 負債コストを低減し社会善を効率的に実現

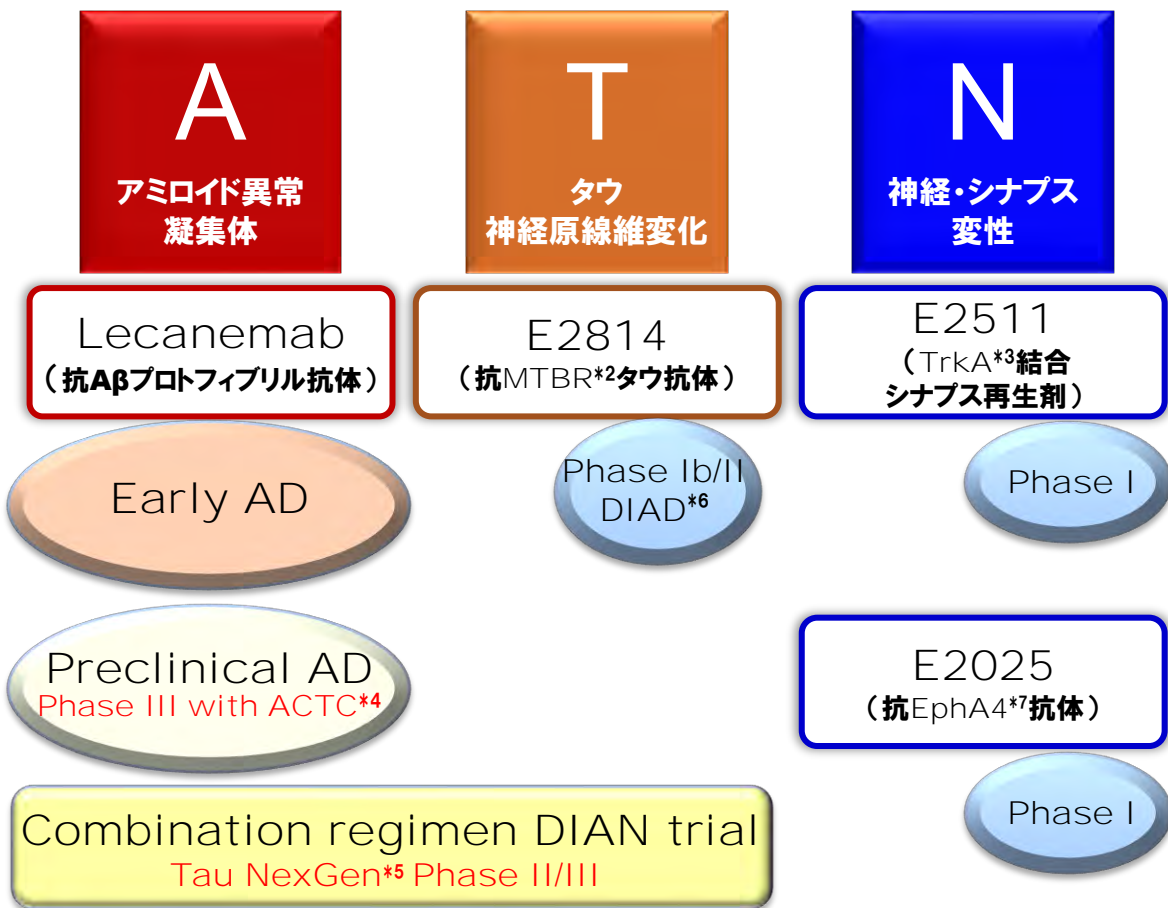
レケンビの価値最大化に加え、後続の神経領域薬剤の開発・上市
さらには非財務資本の充実と積極的な開示を通じて中長期的に企業価値を最大化する

*1 Source: SPEEDA、年度実績ベース *2 Source: SPEEDA、業績予想ベース

*3 人財・研究開発・知財への投資とは、会計上は費用処理される人件費は人財投資、研究開発費は研究開発および知財への無形資産投資であり、バランスシートには計上されないが非財務資本として社会的インパクトの創出につながるの考え方に基づく(2023年度は見通し)

AD治療のフロンティア

ATN*1全体を網羅する包括的なパイプラインにより世界のAD研究をリード



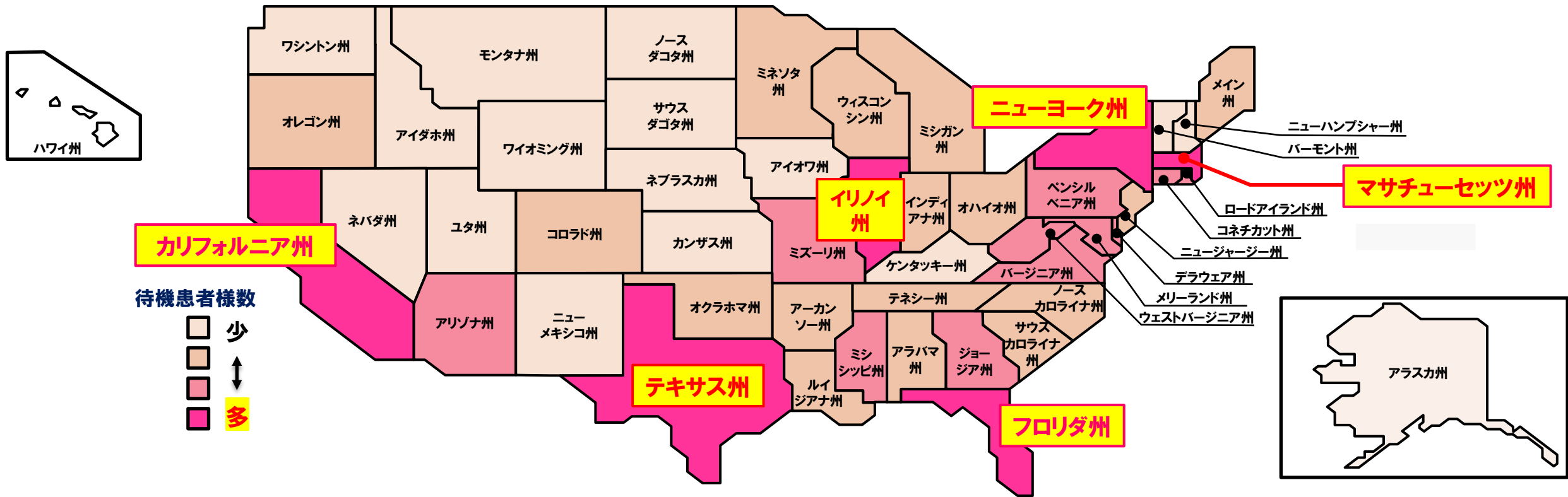
- ・ 認知症の探索研究から臨床開発・承認までの豊富な創薬経験と蓄積されたナレッジ
- ・ ADの病態生理に基づくATNフレームワークを包括的にカバーするパイプライン
- ・ レカネマブはAβを標的とするATNフレームワークにおいてAD治療を根本的に変革する薬剤となり得る
- ・ 今後ATNフレームワークに沿って得られる結果はADのさらなる病態生理解明につながり、精密医療に向けたブレインヘルスパネル構築を可能とする

AD治療の新しいページを開き続ける

*1 Amyloid, Tau, Neurodegeneration *2 microtubule binding region *3 tropomyosin receptor kinase A *4 Alzheimer's Clinical Trials Consortium
*5 優性遺伝アルツハイマーネットワーク試験ユニット (DIAN-TU)が実施するDIADに対する臨床試験 *6 Dominantly inherited Alzheimer's disease 優性遺伝アルツハイマー病 *7 Erythropoietin-producing hepatocellular receptor A4

米国におけるレケンビ治療の着実な進捗

現在投与中の患者様の約4倍相当の待機患者様を把握・確認

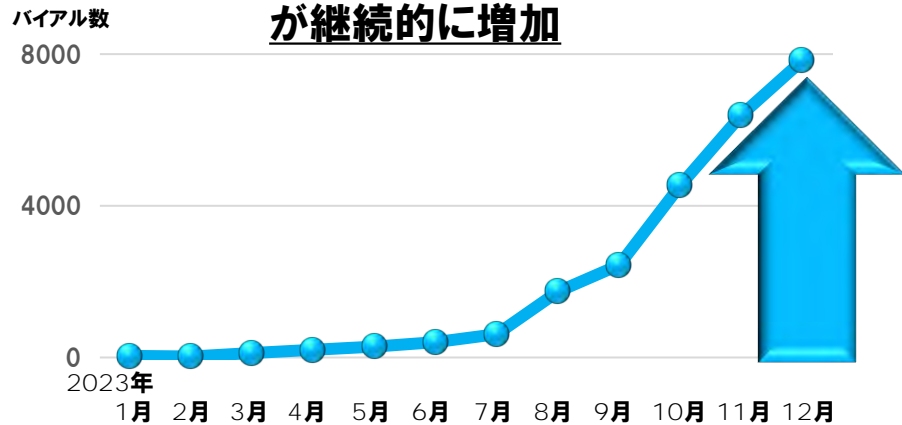


- IDNやCommunity Neurologistのreadinessは着実に進展しており、フィールド担当者による各担当医師とのコミュニケーションから、現在投与中の患者様2,000名の約4倍相当の待機患者様*と分布を特定し、大きなデマンドを確認
- 各医療機関での診断・治療パスウェイが確立し、運用がスムーズに行われるようになるに連れて、このような待機患者様へのレケンビ投与が進んでいくと考えており、今後数カ月で投与いただける患者様が急速に増大することを期待

エーザイのリーダーシップの下、バイオジェンも含めNASを増員

*社内推計。第一線の当社のNAS(Neurology Account Specialist)が各担当医師とコミュニケーションする中で確認した1月中旬時点での治療を待っている当事者様の数の集計値
神経科専門医により、認知機能障害と診断され、レケンビの対象になりうると判断された方々であり、既にAβ陽性が確認されている方も含まれているなど、様々なステージの方が含まれている

バイアルの総発注数*1 が継続的に増加



診断・治療パスウェイが 確立された神経科医数

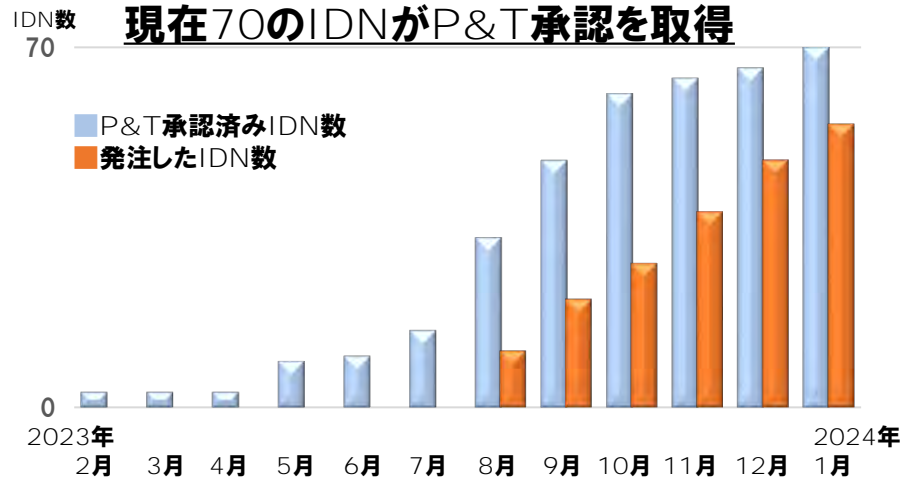


直近実績の
フル承認前比*3
約2.9倍

アミロイドPETおよびPETトレーサー の請求件数推移*4

アミロイドPET関連
請求件数は
保険償還開始を受けて
10月にフル承認前の
水準の**約5倍**に急増

P&T*5承認済みのIDN*6 現在70のIDNがP&T承認を取得



米国のAD治療対象者全体の
90%以上のアクセスを確保*7

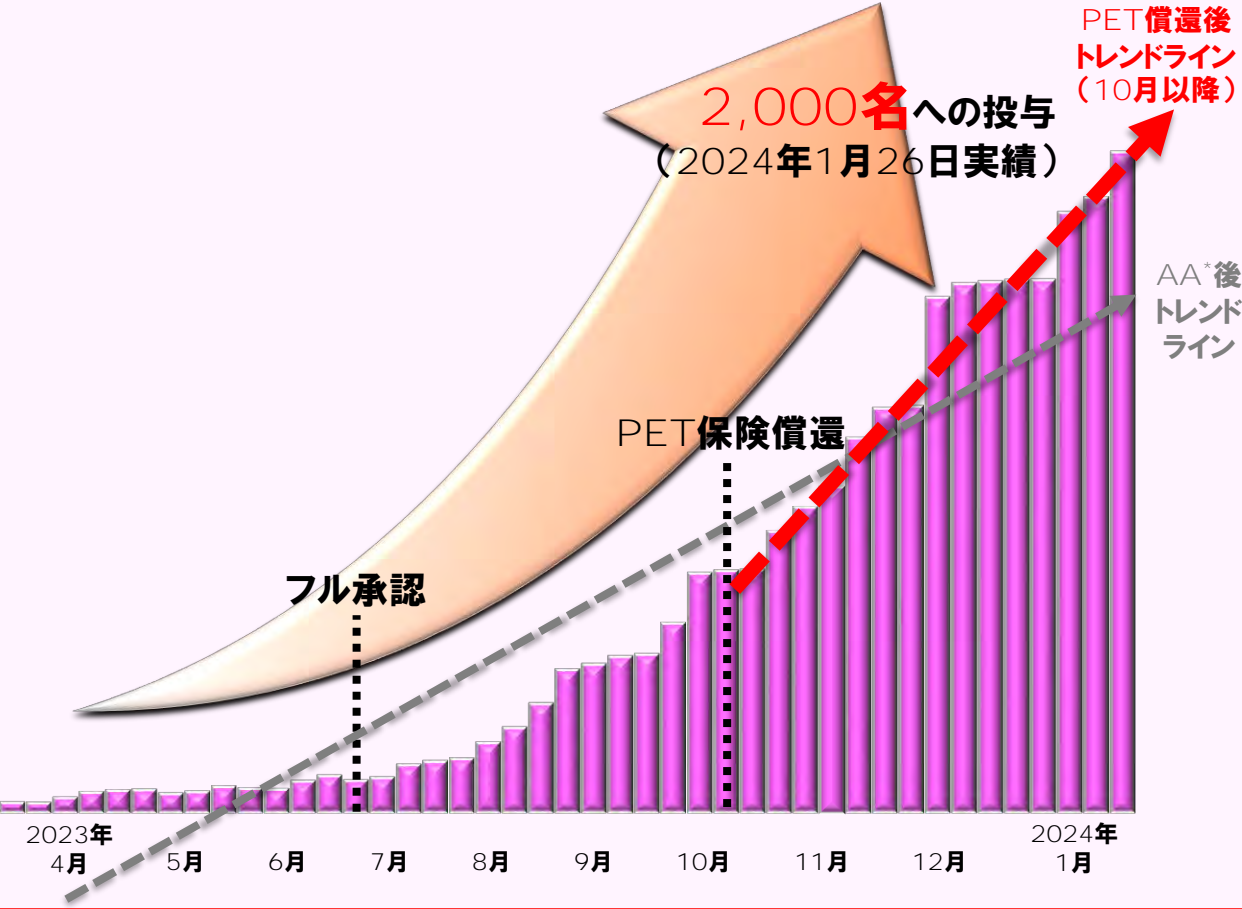
メディケア	メディケイド	民間保険
2023年7月6日 CMS*8が100% カバレッジ確保を発表	全米50州で 100%の アクセス確保	全民間保険 プログラムの70% のアクセス確保

Market Readiness関連の各種指標はいずれも着実な進展を遂げていることを示している
これに伴ってレケンビも着実に市場浸透が進み、加速度的な成長を続けている

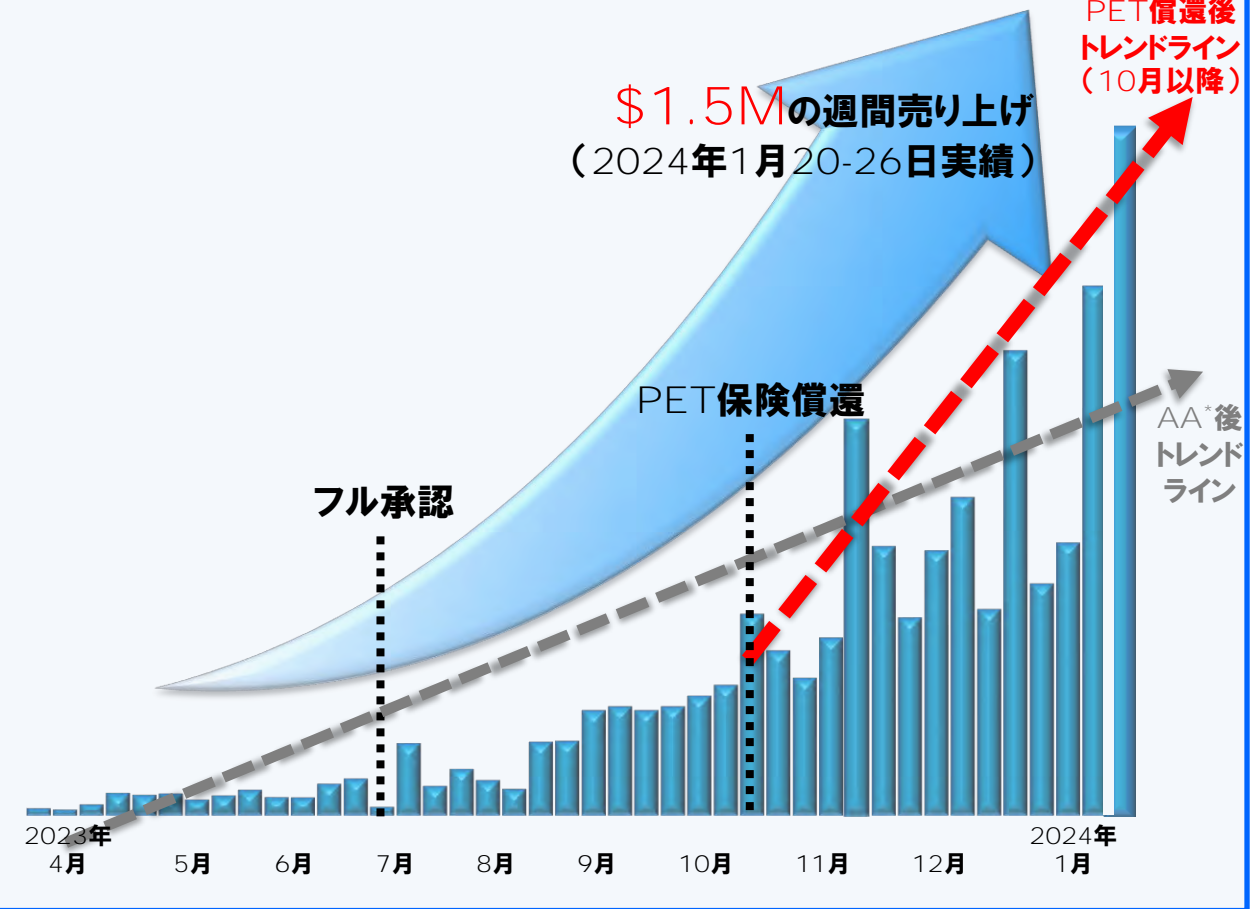
*1 IDNおよびCommunity Hospitalによるバイアル発注数の合計 *2 社内推計 *3 2023年6月比 *4 PurpleLab *5 Pharmacy and Therapeutics
*6 Integrated Delivery Network, 医療機関、医療専門家、医療提供者からなる包括的な医療サービス提供ネットワーク *7 保険償還には一定の基準と制限が適用 *8 Centers for Medicare & Medicaid Services

米国レケンビ 投与継続患者様数と売上実績の双方で 力強い成長を継続

レケンビ投与継続累計患者数

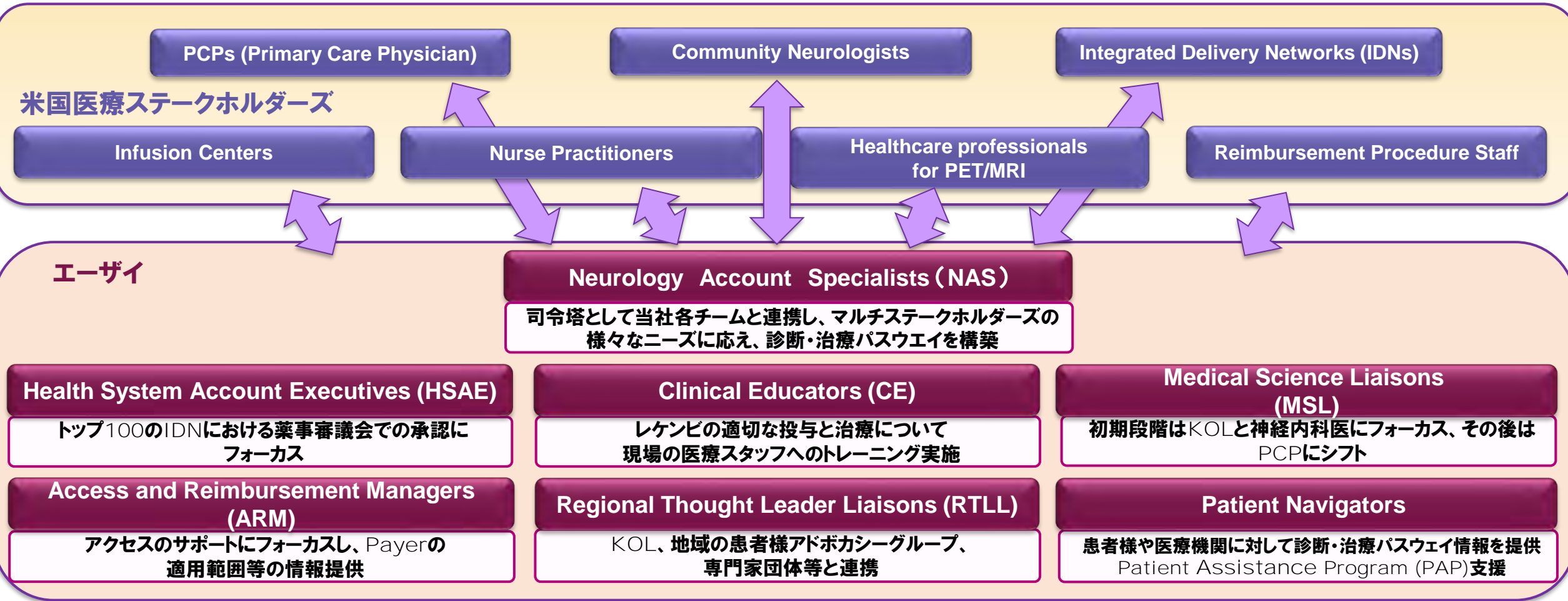


レケンビ週間売上実績推移



**フル承認、PET償還後のMarket Readinessの進捗に応じて
成長トレンドは本年度下期以降にさらに加速**

診断・治療パスウェイ構築が進展



- IDNとCommunity Neurologistの双方に重点を置き、医療従事者の方々とともに医療機関ごとに異なる治療ポリシーやSOP等のプロセスなど、Early AD診断・治療パスウェイを構築
- NASを中心としたマトリクス チームが重層的にマルチ・ステークホルダーとエンゲージしGo-to-Market体制を推進し診断・治療パスウェイ構築を加速

事例1 米国南東部 大規模

Integrated Delivery Network(IDN)

フィールドチーム: 早期からIDNと重層的に連携し、深い関係性を構築

- NAS: 診断・治療パスウェイ構築に向けた協働を展開
- HSAE*2: フォーミュラー対応支援や医療経済情報を提供
- MSL*3: 医療情報を提供
- ARM*4: 患者様サポート情報を提供

IDN: 診断・治療に向けた各ステップを統括する専任コーディネーター(患者ナビゲーター)を採用、組織内での協業体制を確立

- 専任コーディネーターがIDN内の全プロセスを統括



- フロントデスク管理者、看護師、処方医などの対応を横串で統括し、スムーズな診断・治療に貢献

1月末現在、同IDNでは約80名の患者様がレケンビによる治療を継続中

事例2 米国北東部 コミュニティホスピタル

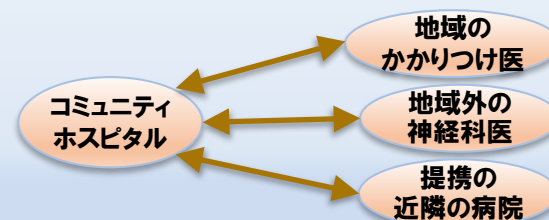
12台のインフュージョンチェアを有し神経科医1名と
Nurse Practitionerの2名が勤務

フィールドチーム: フル承認前から継続して支援

- NAS: フル承認前から継続して診断・治療パスウェイについて支援
- ARM: フル承認後はNASに加えて保険償還情報等を提供
- RTLL*5: KOL*6との連携を支援するなどのサポートを実施

コミュニティホスピタル: Nurse Practitionerが、治療・診断の一連の流れを効率的かつ迅速にできる体制を構築

- Nurse Practitionerが地域のかかりつけ医や神経科医、近隣の病院からのAD患者様の紹介を同医院で受けて、診断・治療におけるプロセス(CSF、遺伝子検査、MRI、インフュージョン)をチーム体制で管理



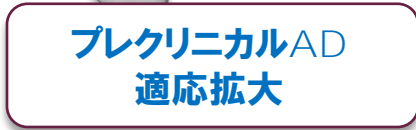
この診断・治療パスウェイの構築によって、紹介から治療まで平均4~5週間でレケンビ投与が可能となった

米国エーザイのGo-to-Marketモデルは着実に成果を見せている
今後より一層の診断・治療パスウェイ構築の拡充とDemand増に対応

米国レケンビ 中長期成長に向けたダイナミズム

診断・治療パスウェイの構築を軸に着実な市場浸透・成長を果たす

診断・治療パスウェイ



維持療法やSC製剤の追加、BBBMによる確定診断の簡便化、プレクリニカルADの適応拡大により、中長期でのレケンビの価値への取り組みは予定通りに進行している

*1 Blood based Biomarker *2 侵襲性の高いCSF検査や高価なPET検査の実施を最小限にする目的で実施する予備検査。検査の結果が陰性であれば、Aβ凝集のクライテリアが陰性である可能性が高く、ADの最終的な確定診断には進まない。陽性であれば、ADとして確定診断するために、CSFやPETによる診断が実施される *3 確定検査 *4 Accelerated approval *5 Subcutaneous Formulation *6 Auto Injector

エーザイの取り組み

- 1983年 認知症領域の創薬活動を開始
- 1999年 アリセプト 日本で発売
- 2000年 AD研究会開始(日本)

アルツハイマー病研究会
第24回学術シンポジウム
 日時: 2023年5月27日(土) 13:00~18:00

これまでに24回の開催で推計29,000人が参加



- 2008年 「まちづくり」支援活動開始

世界で最も高齢化が進む日本において、ADのリーダーとして、KOL、自治体、患者様団体等と連携し、認知症になっても安心して暮らせる「まちづくり」に取り組んできた

2023年12月20日 **レケンビ**
 早期ADの適応で日本 新発売



日本政府の動き

- 2006年 地域包括支援センター開設
- 2012年 オレンジプラン
- 2015年 新オレンジプラン
- 2019年 認知症施策推進大綱 「共生」と「予防」
- 2023年 「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」成立
 認知症と向き合う「幸齢社会」実現会議

議長: 内閣総理大臣

認知症治療の新時代を踏まえた早期発見・早期介入、検査・医療提供体制の整備、研究開発の推進、独居高齢者を含めた高齢者等の生活上の課題への対応

2024年 「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」施行

内閣総理大臣を本部長とした認知症施策推進本部の設置
 公費による認知機能検査の拡大を期待

**レケンビの発売とともに整備された認知症基本法により
 レケンビを当事者様にお届けする機が熟した**

LEQEMBI Japan Kick-off Meeting

LEQEMBI Japan Kick-off Meeting

INVITATION

2024.1/20 SAT
13:00~18:00

地域で認知症医療の中核を担う
約1,300名の医師が参加
リアルとオンラインのハイブリッドでの開催

Meeting概要

新時代の診断・治療パスウェイの構築におけるエッセンスが網羅された実践的なプログラム

早期ADの
臨床診断

ARIA
マネジメント

治療意義

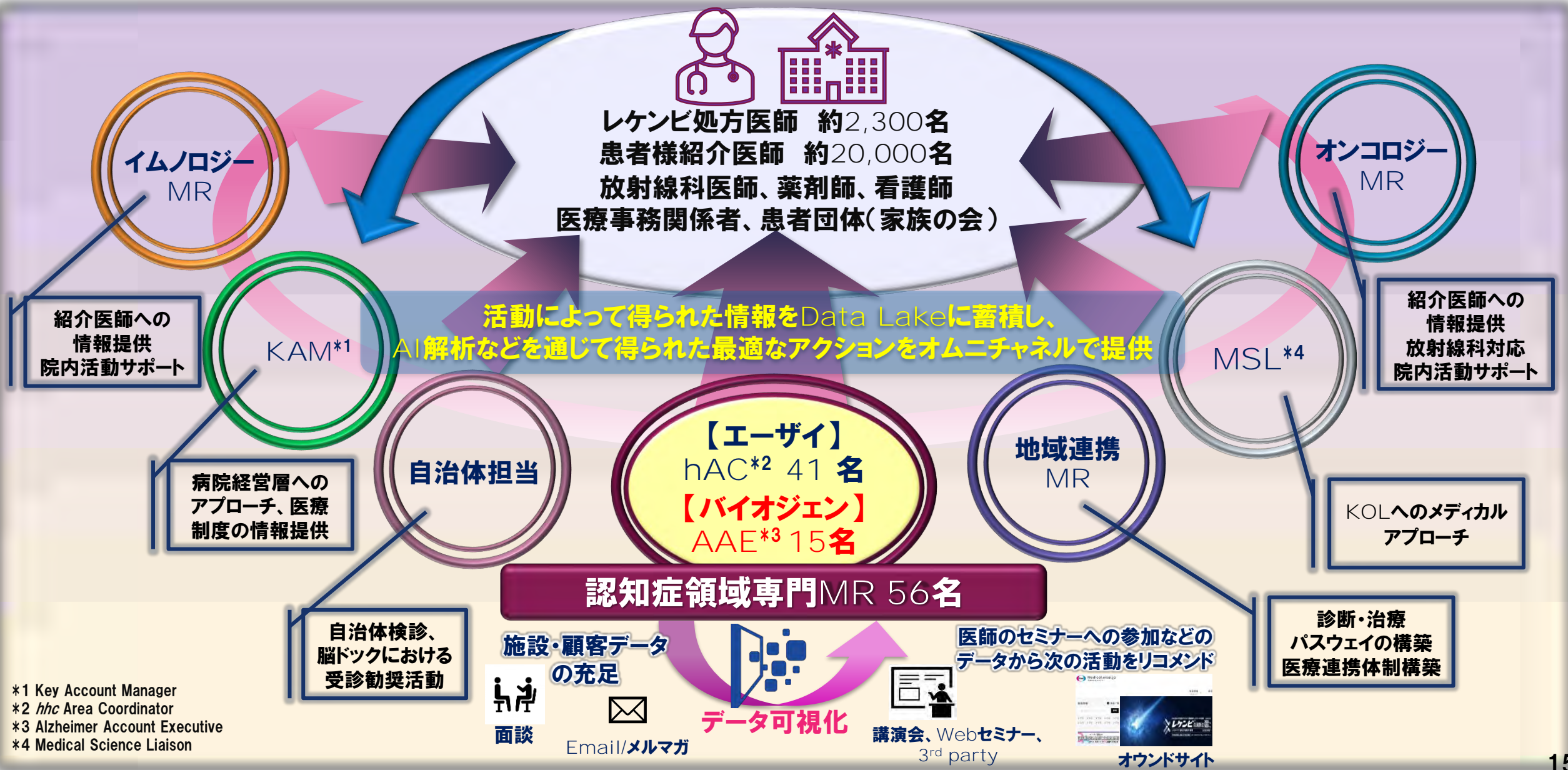
地域連携の
在り方

当事者様との
向き合い方

日本発のAD治療剤レケンビでの治療を開始するにあたり
重要となる診断・治療のパスウェイ構築と安全性マネジメントについて議論

レケンビ 日本のGo-to-Market体制

—総勢 852 名を動員した活動によって全方位にアプローチ—



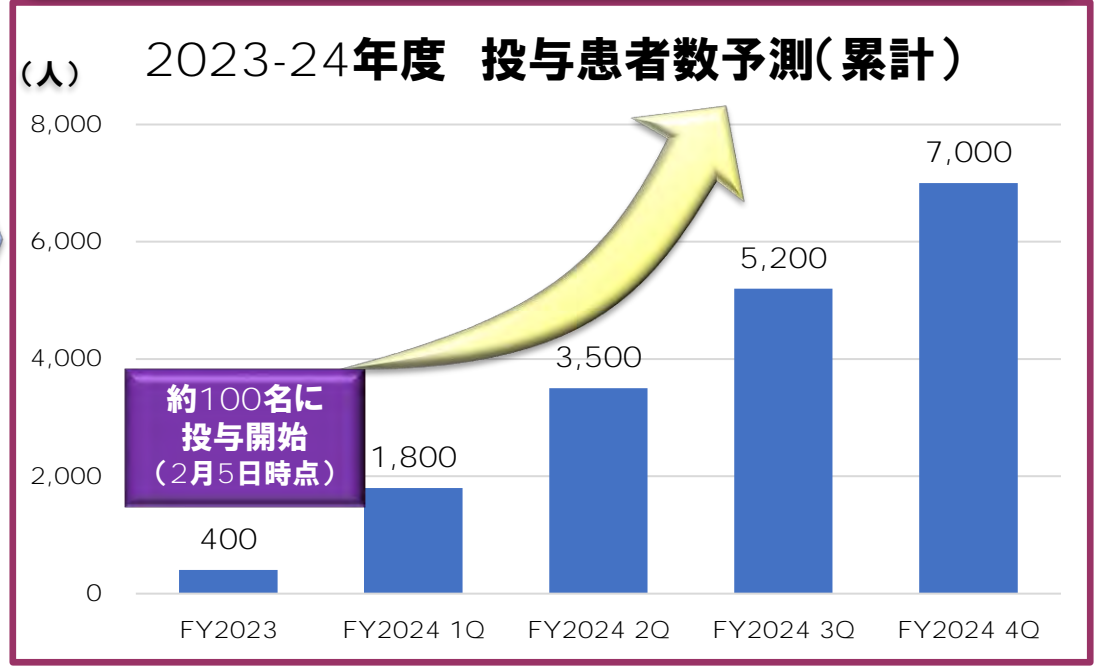
*1 Key Account Manager
 *2 hhc Area Coordinator
 *3 Alzheimer Account Executive
 *4 Medical Science Liaison

レケンビ 日本において上市 レケンビ導入に向けた準備が着々と進行中

上市日(12月20日)から2月5日までの状況

施設数	想定初期導入可能施設 約800~900施設
医師数	<ul style="list-style-type: none"> •ARIA研修受講医師 約3,000名 •レケンビ投与医師 約40名
投与患者数	<ul style="list-style-type: none"> •現在、約100人の当事者に治療開始 •導入予定確認済患者数 約300名 デイリーで確認を行い増加を確認

- 納入完了、処方施設が日々増加中
- 医師要件を満たす医師は短期間で増加



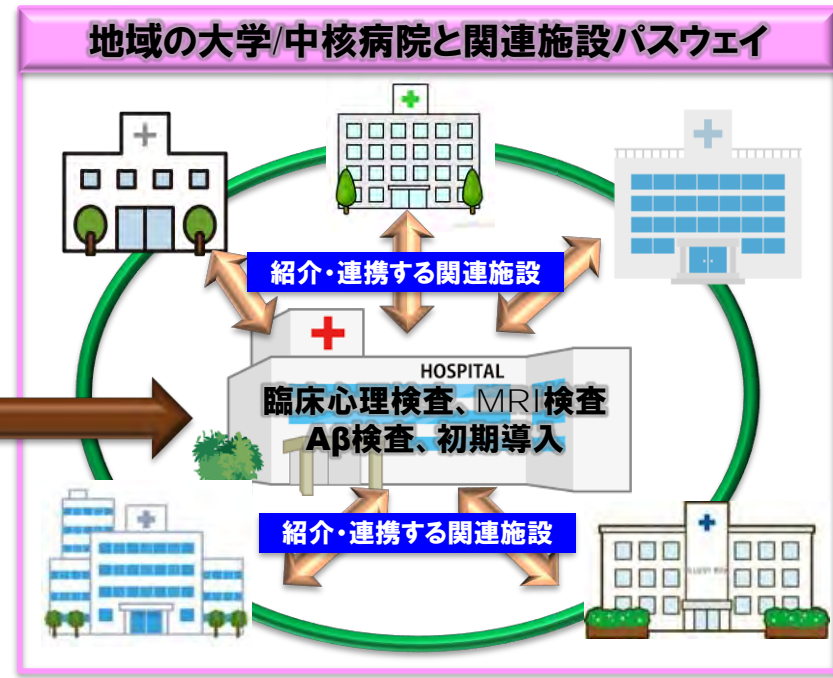
投与可能な施設と医師の加速的増加により投与患者数の拡大を見通す

最適な診断・治療パスウェイ構築の追究

投与開始6ヶ月以降は、自院で継続・管理
 または近隣のフォローアップ施設で投与し、
 定期的な有用性評価や継続判断は初期導入
 施設で実施



受診→専門施設に紹介



診断・治療パスウェイを順調に拡大中

～2023年度 初回導入施設における診断・治療院内環境の整備

2024年度～ 初回導入施設を中心とする紹介・逆紹介の診療連携体制の構築

**初診から治療に至るまでの期間短縮の取り組みを進め
 今年度中に約800施設で診断・治療パスウェイ構築の完了を見込む**

認知症エコシステム構築に向けた取り組み

「Theoria technologies株式会社」を設立し、4月より事業開始

The People

提供

提供

当社グループ力を通じて、各ステージでのデジタルソリューションの提供

エイジング

パシャッとカルテ
(健康情報管理アプリ)

Arteryex*1

高リスク

のうKNOW*2
(脳の健康度チェック)

エーザイ

認知機能低下
リスク予測AI

Theoria

開発中
臼杵コホートデータを用いてMCIへ移行するリスクを表出化するAIを開発中。数百名規模での実証実験(PoC)を実施し、2024年度中に上市予定

受診・治療

ササエル
(診療支援アプリ)

Theoria

患者様・介護者様が日常生活動作を記録し、診察時に医師に見せることで治療環境の向上に貢献

自然経過・
治療効果予測AI

Theoria

開発中
Clarity AD試験等の結果を活用してAIモデルを開発中。2024年度中に医療機関での実証実験をめざす

ケア・ソナエ

ササエル

産業連携

- 保険
イーデザイン損害保険株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
ライフネット生命保険株式会社
- 金融
株式会社埼玉りそな銀行
- 通信
- 自動車
本田技研工業株式会社
- フィットネス
- 食品
株式会社伊藤園



パシャッとカルテ



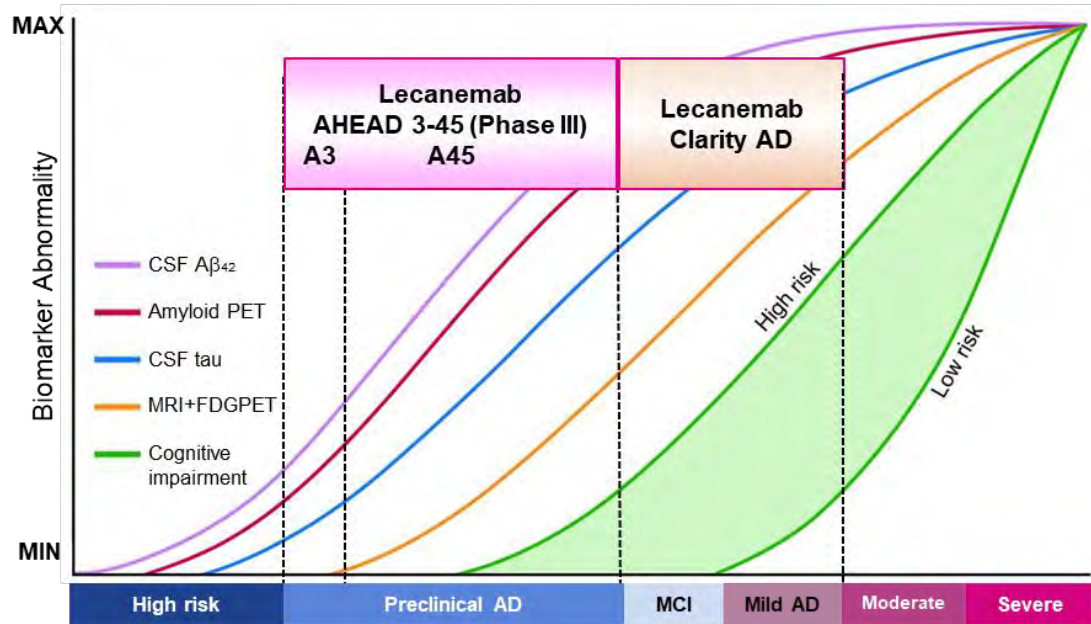
認知症のあらゆるステージでデジタルソリューション提供し、憂慮解消を実現する

*1: Arteryex株式会社。2022年より当社子会社。 *2: のうKNOW: Cogstate Ltd.(本社:オーストラリア)が創出したアルゴリズムに基づいてエーザイが開発、日本では2020年より販売開始、エーザイとCogstate社とはグローバルで協業体制を構築し、当面エーザイにて事業を継続して展開

中長期的に大きなインパクト: Preclinical AD

レカネマブ AD Continuumにおける最も初期段階の治療

A3とA45はアルツハイマー病における最も早期な治療*1



AHEAD 3-45 Study (ACTC*2とフェーズIII試験を実施中)

- A3 および A45 集団はアミロイドPET および正常な認知機能によって定義 (ベースライン; MMSE \geq 27, CDR=0)
- タイトレーション並びにより低用量の投与レジメン (10 mg/kg Q4W)
- A3 集団 (Intermediate A β) 主要評価項目: アミロイドPET SUVR*3 (216週)
- A45 集団 (Elevated A β) 主要評価項目: PACC5*4 Score (216週)
- 試験終了 2027年; 組み入れ数 1400症例 (CT.gov)

■ Preclinical AD

- 世界のPreclinical ADの患者様数は3億1,500万人と推定*5され、大きな患者様貢献を想定
- 抗アミロイド抗体であるレカネマブは、重大で不可逆的な神経変性や認知機能低下に至る前のAD Continuumの初期段階で最も効果的である可能性

■ AHEAD 3-45試験

- A3 および A45 集団によるフェーズIII試験が進行中
- BBBM*6によるスクリーニングが広く普及することにより、より多くのPreclinical AD患者様が、レカネマブで治療可能となると想定

抗アミロイド抗体であるレカネマブは、BBBMのさらなる開発と普及によりAD Continuumの初期段階であるPreclinical ADにおける多くの患者様貢献を目指す

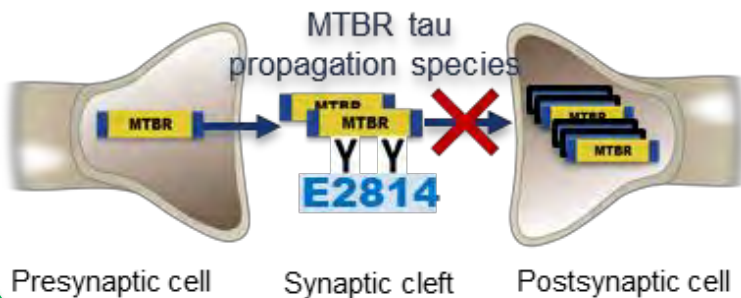
次世代ADパイプライン:根本病理に関わる治療薬剤第二弾

抗MTBR*1 Tau抗体 E2814*2

ATN*3全体を網羅する包括的なADパイプラインにより世界のAD研究をリード



抗MTBR Tau抗体 E2814



- 仮説:MTBRを含むタウ伝播種を細胞外で捉え、伝播を阻止することで凝集体の拡散を阻害する治療可能性を追求
- POM*4:ADにおけるタウ神経原線維変化に特異的なバイオマーカーである MTBR-tau243*5は、DIAD*6患者様に対するE2814投与によって減少することを確認*7
- Clinical Development (実施中)
 - Tau NexGen*8 フェーズ II/III: Lecanemab + E2814 併用レジメンによる試験
 - Target Population: Preclinical AD - Moderate AD
 - DIADフェーズ Ib/II (Study 103): MTBR-tau243によるTarget engagement を確認
 - Target Population: Mild AD - Moderate AD
- MTBRタウによる病態生理学に基づき、対象PopulationをDIADだけではなくSporadic ADに拡大することを計画

抗アミロイド抗体との併用により、より高い臨床効果を追究し、幅広いPopulationに展開

次世代AD標準治療の確立をめざす

AβやTauに関する新規バイオマーカー開発は、早期治療開始を可能にし、標準治療の確立に貢献

*1: Microtubule binding region *2: Investigational. Discovered as part of research collaboration between Eisai and University College London *3 Amyloid, Tau, Neurodegeneration *4: Proof of Mechanism *5: Horie et al., Nature Medicine 2023 *6: Dominantly inherited Alzheimer disease. Gene mutation was confirmed in either PSEN1, PSEN2, or APP *7: Zhou et al., AAIC2023 *8: Study name is Tau Next Generation. Study in DIAD conducted by Dominantly Inherited Alzheimer Network Trials Unit (DIAN-TU)

**LEQEMBIはAβを標的とするATNフレームワークにおける
世界で最初のAD治療薬です。**

**米国、日本、中国で早期AD治療剤として承認を受け、
新たな診断・治療のパスウェイづくりが始まりました。**

**臨床診断、Aβ検査(PET/CSF/BBBM)、Infusion、ARIAモニタリングの
スムーズな進行、維持療法ならびに皮下注(SC)製剤の実現、
BBBMの実装により、シンプルな診断・治療のパスウェイを確立し、
LEQEMBIを必要とされる全ての方々にお届けできるよう
ステークホルダーの皆様と協働しています。**

**また、予防から治療まで、薬剤にとどまらないソリューションを含め
より充実した選択肢を提供できるよう、包括的な認知症エコシステムの
構築も加速させてまいります。**

参考資料

連結損益計算書



(億円、%)	2022年度		2023年度					
	4-12月実績	売上比	4-12月実績	売上比	前同比	通期見通し (11月公表)	前期比	進捗率
売上収益	5,462	100.0	5,513	100.0	101	7,410	100	74.4
医薬品事業 売上収益	5,319	97.4	5,281	95.8	99	6,900	101	76.5
その他事業 売上収益	143	2.6	232	4.2	162	510	85	45.5
売上原価	1,393	25.5	1,192	21.6	86	1,545	87	77.2
売上総利益	4,069	74.5	4,320	78.4	106	5,865	104	73.7
費用合計*1	3,931	72.0	3,945	71.6	100	—	—	—
研究開発費	1,214	22.2	1,245	22.6	103	1,660	96	75.0
販売管理費	2,730	50.0	2,710	49.2	99	3,740	104	72.5
その他の損益	13	0.2	10	0.2	80	45	94	22.7
営業利益	138	2.5	375	6.8	272	510	127	73.6
当期利益	409	7.5	308	5.6	75	430	76	71.6
当期利益(親会社所有者帰属)	391	7.2	291	5.3	74	415	75	70.1

2023年度第3四半期中平均レート 米ドル: 143.29円(前期変動率+5.0%)、ユーロ: 155.29円(同+10.5%)、英ポンド: 179.51円(同+9.5%)、人民元: 19.98円(同+0.6%)

*1 研究開発費+販売管理費-その他の損益

セグメント売上収益



(億円、%)	2022年度		2023年度					
	4-12月 売上収益	構成比	4-12月 売上収益	構成比	前同比	通期見通し (11月公表)	前期比	進捗率
医薬品事業計	5,319	97.4	5,281	95.8	99	6,900	101	76.5
日本	1,881	34.4	1,720	31.2	91	2,245	94	76.6
アメリカス*1	1,619	29.6	1,721	31.2	106	2,290	108	75.2
中国	915	16.8	864	15.7	94	1,095	99	78.9
EMEA*2	525	9.6	562	10.2	107	740	103	75.9
アジア・ラテンアメリカ*3	378	6.9	414	7.5	109	530	106	78.1
その他事業*4	143	2.6	232	4.2	162	510	85	45.5
連結売上収益	5,462	100.0	5,513	100.0	101	7,410	100	74.4

外部顧客に対する売上収益を示す

当社グループは、セグメントを医薬品事業とその他事業に区分しており、医薬品事業を構成する日本、アメリカス(北米)、中国、EMEA(欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア)、アジア・ラテンアメリカ(韓国、台湾、インド、アセアン、中南米等)の5つの事業セグメントを報告セグメントとしている。なお、当連結会計年度における日本事業の再編に伴い、一般用医薬品等事業を日本医薬品事業へ統合し、前連結会計年度のセグメント情報は、当該変更を反映している

*1 北米 *2 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア *3 韓国、台湾、インド、アセアン、中南米等 *4 親会社のライセンス収入及び医薬品原料などに係る事業

セグメント利益



(億円、%)	2022年度			2023年度			
	4-12月 セグメント利益	構成比	利益率	4-12月 セグメント利益	構成比	利益率	前同比
医薬品事業計	2,562	97.3	48.2	2,696	94.5	51.1	105
日本	611	23.2	32.5	601	21.1	34.9	98
アメリカス^{*1}	989	37.6	61.1	1,118	39.2	65.0	113
中国	491	18.7	53.7	467	16.4	54.0	95
EMEA^{*2}	295	11.2	56.2	314	11.0	55.8	106
アジア・ラテンアメリカ^{*3}	176	6.7	46.6	197	6.9	47.5	112
その他事業^{*4}	71	2.7	49.3	156	5.5	67.1	220
セグメント利益計	2,633	100.0	48.2	2,852	100.0	51.7	108
研究開発費および 親会社の本社管理費等^{*5}	-2,495	—	—	-2,477	—	—	99
連結営業利益	138	—	2.5	375	—	6.8	272

*1 北米 *2 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア *3 韓国、台湾、インド、アセアン、中南米等 *4 親会社のライセンス収入及び医薬品原料などに係る事業

*5 パートナーとの戦略的提携に伴う利益及び費用の折半金額を含む

当社グループがMerck & Co., Inc., Rahway, NJ, USAに支払う抗がん剤「レンビマ」の利益折半費用（2022年度4-12月期：914億円、2023年度4-12月期：1,034億円）

主要品目グローバル売上収益



(億円、%) []内は現地通貨ベース	2022年度		2023年度					
	4-12月 実績	売上比	4-12月 実績	売上比	前同比	通期見通し (11月公表)	前期比	進捗率
レンビマ	1,913	100.0	2,232	100.0	117 [112]	2,930	117	76.2
日本	106	5.5	122	5.5	115 [115]	175	128	69.8
アメリカス	1,232	64.4	1,521	68.2	124 [118]	1,985	123	76.6
中国	274	14.3	211	9.5	77 [76]	280	87	75.5
EMEA	220	11.5	277	12.4	126 [123]	370	120	74.8
アジア・ラテンアメリカ	81	4.2	100	4.5	124 [117]	120	108	83.6
デエビゴ	220	100.0	312	100.0	142 [141]	425	145	73.3
日本	181	82.6	266	85.5	147 [147]	350	144	76.1
アメリカス	36	16.2	38	12.2	107 [103]	50	105	75.8
アジア・ラテンアメリカ	1	0.6	5	1.7	374 [360]	—	—	—
ハラヴェン	318	100.0	287	100.0	90 [88]	370	90	77.6
日本	65	20.5	61	21.4	94 [94]	85	100	72.3
アメリカス	110	34.6	93	32.2	84 [80]	110	79	84.1
中国	17	5.3	15	5.4	92 [91]	20	100	77.4
EMEA	102	32.2	91	31.6	89 [87]	120	88	75.6
アジア・ラテンアメリカ	23	7.3	27	9.4	116 [109]	35	107	76.9
フィコンパ*	305	100.0	197	100.0	64 [62]	255	69	77.1
日本	47	15.4	54	27.3	114 [114]	75	124	71.6
中国	19	6.2	28	14.4	150 [149]	30	126	94.4
EMEA	85	27.9	94	47.9	110 [104]	125	107	75.4
アジア・ラテンアメリカ	13	4.3	15	7.5	111 [108]	20	115	73.3

* 2023年1月25日に米国での権利をCatalyst Pharmaceuticals, Inc.に譲渡

日本 医薬品事業の業績



(億円、%)	2022年度		2023年度					
	4-12月 実績	売上比	4-12月 実績	売上比	前同比	通期見通し (11月公表)	前期比	進捗率
売上収益	1,881	100.0	1,720	100.0	91	2,245	94	76.6
医療用医薬品	1,694	90.1	1,542	89.6	91	2,010	93	76.7
デエビゴ	181	9.6	266	15.5	147	350	144	76.1
ヒュミラ*1	375	19.9	134	7.8	36	135	29	99.2
レンビマ	106	5.6	122	7.1	115	175	128	69.8
ジセレカ	53	2.8	96	5.6	180	150	204	64.3
メチコバル	82	4.3	74	4.3	91	100	97	74.4
ハラヴェン	65	3.5	61	3.6	94	85	100	72.3
エレンタール*2	55	2.9	57	3.3	103	65	92	86.9
ゲーフィス*2	51	2.7	56	3.2	108	75	115	74.0
フィコンパ	47	2.5	54	3.1	114	75	124	71.6
モビコール*2	44	2.4	51	3.0	116	70	122	73.4
エクフィナ	36	1.9	45	2.6	124	70	153	63.6
パリエット*2,3	45	2.4	33	1.9	73	—	—	—
アリセプト	34	1.8	26	1.5	75	—	—	—
一般用医薬品等	187	9.9	179	10.4	95	235	100	76.0
チョコラBBグループ	111	5.9	115	6.7	104	160	113	71.9
セグメント利益	611	32.5	601	34.9	98	—	—	—

*1 2023年6月にアツヴィ合同会社との日本での開発および販売契約満了

*2 EAファーマの取り扱い製品 *3 ヘリコバクター・ピロリ除菌用3剤組み合わせバック製剤「ラベキュアバック400/800」および「ラベファインバック」の売上収益を含む

アメリカス* 医薬品事業の業績



(億円、%) []内は現地通貨ベース	2022年度		2023年度					
	4-12月 実績	売上比	4-12月 実績	売上比	前同比	通期見通し (11月公表)	前期比	進捗率
売上収益	1,619	100.0	1,721	100.0	106 [101]	2,290	108	75.2
レンビマ	1,232	76.1	1,521	88.4	124 [118]	1,985	123	76.6
ハラヴェン	110	6.8	93	5.4	84 [80]	110	79	84.1
Dayvigo	36	2.2	38	2.2	107 [103]	50	105	75.8
Banzel	37	2.3	27	1.6	74 [71]	—	—	—
レケンビ	—	—	14	0.8	— [—]	—	—	—
セグメント利益	989	61.1	1,118	65.0	113 [108]	—	—	—

* 北米

中国 医薬品事業の業績



(億円、%) [] 内は現地通貨ベース	2022年度		2023年度					
	4-12月 実績	売上比	4-12月 実績	売上比	前同比	通期見通し (11月公表)	前期比	進捗率
売上収益	915	100.0	864	100.0	94 [94]	1,095	99	78.9
レンビマ	274	30.0	211	24.5	77 [76]	280	87	75.5
メリスロン	81	8.9	102	11.8	125 [125]	—	—	—
メチコパール	120	13.2	99	11.4	82 [81]	—	—	—
パリエット	71	7.8	63	7.3	89 [88]	—	—	—
強力ネオミノファーゲンシー/グリチロン	64	7.0	54	6.2	84 [83]	—	—	—
アリセプト	52	5.7	51	5.9	99 [98]	—	—	—
Fycompa	19	2.1	28	3.3	150 [149]	30	126	94.4
ハラヴェン	17	1.8	15	1.8	92 [91]	20	100	77.4
セグメント利益	491	53.7	467	54.0	95 [94]	—	—	—

EMEA* 医薬品事業の業績



(億円、%) []内は現地通貨ベース	2022年度		2023年度					
	4-12月 実績	売上比	4-12月 実績	売上比	前同比	通期見通し (11月公表)	前期比	進捗率
売上収益	525	100.0	562	100.0	107 [103]	740	103	75.9
レンビマ/Kispilyx	220	41.9	277	49.3	126 [123]	370	120	74.8
Fycompa	85	16.2	94	16.8	110 [104]	125	107	75.4
ハラヴェン	102	19.5	91	16.1	89 [87]	120	88	75.6
イノベロン	23	4.4	25	4.4	107 [100]	—	—	—
セグメント利益	295	56.2	314	55.8	106 [104]	—	—	—

* 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

アジア・ラテンアメリカ* 医薬品事業の業績



(億円、%) []内は現地通貨ベース	2022年度		2023年度					
	4-12月 実績	売上比	4-12月 実績	売上比	前同比	通期見通し (11月公表)	前期比	進捗率
売上収益	378	100.0	414	100.0	109 [105]	530	106	78.1
アリセプト	100	26.3	101	24.4	102 [97]	—	—	—
レンビマ	81	21.4	100	24.2	124 [117]	120	108	83.6
パリエット	35	9.2	40	9.7	116 [111]	—	—	—
メチコパール	30	8.0	33	7.9	107 [104]	—	—	—
ハラヴェン	23	6.1	27	6.5	116 [109]	35	107	76.9
Fycompa	13	3.5	15	3.5	111 [108]	20	115	73.3
セグメント利益	176	46.6	197	47.5	112 [106]	—	—	—

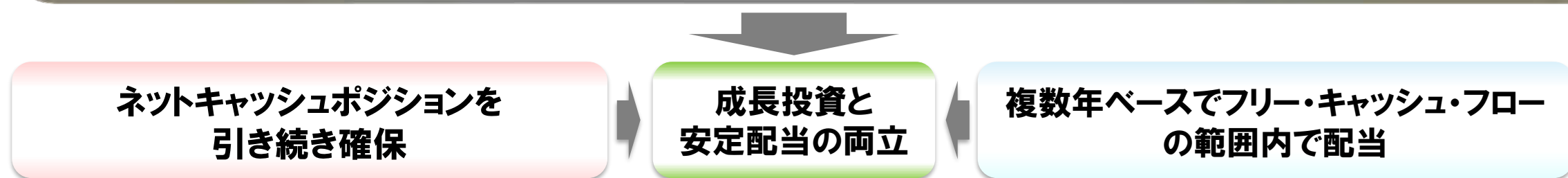
* 韓国、台湾、インド、アセアン、中南米等

Strong Balance Sheetによる成長投資と安定配当の両立



	2023年12月末	前期末差
Net cash*1	1,427億円	-227億円
Net DER*2(倍)	-0.17	+0.03
株主資本(親会社持分)	8,189億円	+189億円
親会社所有者帰属持分比率 (自己資本比率)	62.5%	-0.9%

**最適資本構成の
KPIを堅持**
Net DER
-0.3 ~ +0.3
親会社所有者帰属持分比率
60%レベル



財務の健全性に基づき、成長投資と安定配当を堅持
レケンビ*3を軸とする成長の中で、中長期的な株主価値の最大化をめざす

配当支払いは毎年の取締役会決議を前提とする

*1 Net cash=現金・有価証券(現金及び現金同等物+3カ月超預金等+親会社保有投資有価証券)-有利子負債(社債及び借入金)

*2 Net DER: Net Debt Equity Ratio=(有利子負債(借入金)-現金及び現金同等物-3カ月超預金等-親会社保有投資有価証券)÷親会社の所有者に帰属する持分

*3 バイオジェンとの共同開発品でバイオアークティックとエーザイの共同研究から得られたアルツハイマー病に対する抗体。一般名:レカネマブ

抗Aβ抗体 試験デザイン概要

化合物 (試験スポンサー)	試験名(フェーズ) NCTナンバー	対象患者様 (登録又は目標症例数)	用量	組み入れ条件(抜粋)	主要評価項目(コア試験)
lecanemab*1 (Eisai, Biogen)	Clarity AD (フェーズ III) NCT03887455	早期AD (1906*2, *3)	コア試験: 10mg/kg (biweekly) プラセボ OLE: 10mg/kg biweekly 720mg weekly (SCサブスタディ)	コア試験: MCI due to AD および 軽度AD-D (NIA-AA)、 CDR: 0.5-1、CDR memory box \geq 0.5、アミロイド陽性、 MMSE \geq 22、WMS-IV LM II: \geq 1 SD below age-adjusted mean SCサブスタディ: ベースラインのアミロイドPETの測定は SC投与開始前4週間以内に実施	CDR-SB (18カ月)
lecanemab (Eisai, ACTC, Biogen, NIA)	AHEAD 3-45 (フェーズ III) NCT04468659	プレクリニカルAD (1400)	5mg/kg + 10mg/kg プラセボ	CDR: 0, MMSE \geq 27, WMS-R LM II \geq 6 A3: 脳内アミロイド蓄積が境界域にある A45: 脳内アミロイド陽性	A3: アミロイドPET SUVR (216週) A45: Preclinical Alzheimer Cognitive Composite 5 (PACC5) (216週)
E2814*4/lecanemab (Washington University School of Medicine, Eisai)	DIAN-TU (フェーズ II/III) NCT05269394	DIAD*5, 認知機能が正常、 またはMCI、または 軽度認知症 (168)	E2814, lecanemab プラセボ(E2814)	アルツハイマー病の要因となる変異を保有し、 発症予測年齢又は実際の発症年齢から \pm 10才以内。 認知機能正常または軽度認知障害または 軽度認知症、CDR: 0-1	投与24週から104(中間解析)週 および 208週(最終解析)における タウPETの変化量
aducanumab (Biogen)	ENVISION*6 (フェーズ IIIb/IV) NCT05310071	早期AD (1512)	10mg/kg monthly プラセボ	アミロイド陽性、MCI due to AD または 軽度AD (NIA-AA)、 MMSE: 22-30、CDR memory score $>$ 0.5、 CDR-Global Score: 0.5 or 1.0、RBANS*7 \leq 85	CDR-SB (78週)
donanemab (Eli Lilly)	TRAILBLAZER-ALZ (フェーズ II) NCT03367403	プロドローマルから 軽度AD (272)	700mg Q4W x3, 1400mg Q4W up to 72W プラセボ	MMSE: 20-28 18 F flortaucipir と 18 F florbetapir PETのeligibility criteriaに合致	Integrated Alzheimer's Disease Rating Scale (iADRS) (18カ月)
	TRAILBLAZER-ALZ 2 (フェーズ III) NCT04437511	早期AD (プロドローマルから軽度) (1800)	donanemab プラセボ	MMSE: 20-28 18 F flortaucipir と 18 F florbetapir PETのeligibility criteriaに合致	iADRS (76週)
	TRAILBLAZER-ALZ 3 (フェーズ III) NCT05026866	プレクリニカルAD (2600)	donanemab プラセボ	Telephone Interview for Cognitive Status-modified (TICS-M) スコアで認知機能が損なわれていないことを確認。アミロイドおよび 早期タウ病理と一致するリン酸化タウ(P-tau)の結果を有する	Time to clinical progression by Clinical Dementia Rating-Global Score (CDR-GS) (~182週)
	TRAILBLAZER-ALZ 5 (フェーズ III) NCT05508789	早期AD (プロドローマルから軽度) (1500)	donanemab プラセボ	MMSE: 20-28 18 F flortaucipir と 18 F florbetapir PETのeligibility criteriaに合致	iADRS (76週)
	TRAILBLAZER-ALZ 6 (フェーズ IIIb) NCT05738486	早期AD (800)	donanemab (用量レベル1, 2, 3, 4) プラセボ	MMSE: 20-28 アミロイド PET スキャンによるアミロイド病理の確認	ARIA-E(アミロイド関連画像異常 浮腫・滲出液)の発生が認められた 被験者様の割合(24週)
remnetnetug LY3372993 (Eli Lilly)	TRAILRUNNER-ALZ 1 (フェーズ III) NCT05463731	早期AD (600)	remnetnetug (IV) remnetnetug (SC) プラセボ	MMSE: 20-28、アミロイド病変と一貫したリン酸化タウ(P-tau) およびアミロイドPETの結果を有する	PETスキャンでアミロイド陰性が 認められた被験者様の割合(52週)

上記の試験デザイン概要は、2024年1月26日のClinicalTrials.govの情報をもとにエーザイが編集 OLE:非盲検延長試験 IV:静脈注射 SC:皮下注射

*1 バイオアークティックとエーザイの共同研究から得られた、ADに対する抗体 *2 中国の症例数111名を含む *3 SCサブスタディではコア試験に参加されていない被験者様40例を追加で組み入れ予定

*4 抗MTBRタウ抗体(エーザイ)、英国のユニバーシティ カレッジ ロンドン(UCL)との共同研究 *5 Dominantly Inherited Alzheimer's Disease *6 「ADUHELM® 静注100mg/mL(一般名:アデュカヌマブ)の開発ならびに販売を中止し、ENVISION試験の終了」をBiogen社は
1月31日にリリース *6 Repeatable Battery for the Assessment of Neuropsychological Status

ADのPatient Journeyを支えるパイプライン

抗MTBR*1タウ抗体E2814*2を中心とするAD後続プログラムの開発加速

ATN(I)*3 包括的ADパイプライン	適応症	非臨床	フェーズ I	フェーズ II	フェーズ III	申請	承認・上市	
A Lecanemab*4 (抗Aβ*5プロトフィブリル抗体)	早期AD フル承認 (米国)	2023年7月 フル承認・上市						
	早期AD (日本)	2023年9月 承認 2023年12月上市						
	早期AD (中国)	2024年1月 承認						
	早期AD (欧州)	2023年1月 承認申請(MAA*6)						2024年度1Q 承認期待
	プレクリニカルAD*7	フェーズ III 進行中						
	皮下注製剤 (剤形追加)	サブスタディを301-OLE内で実施				2023年度 申請予定		
	メンテナンス投与	サブスタディを201-OLE内で実施				2023年度 申請予定		
T E2814 (抗MTBRタウ抗体)	Tau NexGen*8 DIAD*9対象 Lecanemabとの併用レジメン	フェーズ II / III 進行中						
	103試験 DIAD対象	フェーズ I b / II 進行中			DIAD患者様において、新規に開発したバイオマーカー (MTBR-tau243) を用いてTarget Engagementを確認			
N E2511 (TrkA*10統合シナプス再生剤)	AD	フェーズ I (MAD*11) 進行中						
	E2025 (抗EphA4*12抗体)	AD	フェーズ I 進行中					
(I) TREM2*13機能調整 認知症神経免疫調整剤	AD	[Progressing]						
	CD33モジュレーター*14	AD	[Progressing]					

*1 Microtubule binding region 微小管結合領域 *2 英国のユニバーシティ カレッジ ロンドンとの共同研究 *3 ATN (I): Amyloid, Tau, Neurodegeneration, (Neuro-Inflammation)
 *4 バイオジェンとの共同開発品でバイオアークティックとエーザイの共同研究から得られたアルツハイマー病に対する抗体。米国での製品名LEQEMLI。 *5 アミロイドベータ *6 Marketing Authorization Application
 *7 ACTC (Alzheimer's Clinical Trials Consortium)と実施 *8 優性遺伝アルツハイマーネットワーク試験ユニット (DIAN-TU)が実施するDIADに対する臨床試験 *9 DIAD: Dominantly inherited Alzheimer's disease 優性遺伝アルツハイマー病
 *10 tropomyosin receptor kinase A *11 Multiple Ascending Dose 反復投与試験 *12 Erythropoietin-producing hepatocellular receptor A4 *13 Triggering receptor expressed on myeloid cells 2
 *14 Siglec(シアル酸結合Igスーパーファミリーレクチン)ファミリーの膜糖タンパク質

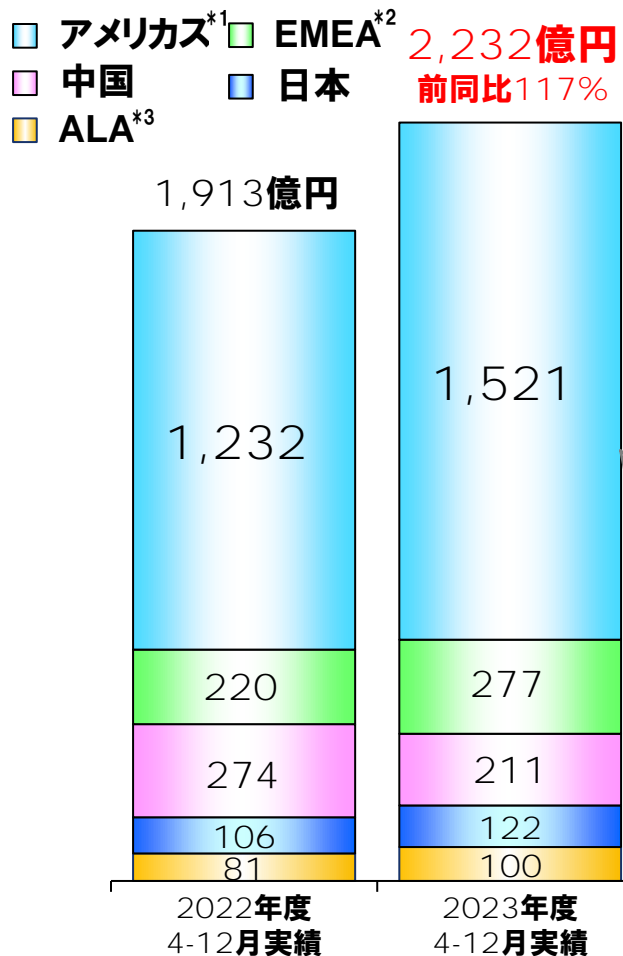
オンコロジー領域のパイプライン

がん領域 パイプライン		非臨床試験	フェーズ I	フェーズ II	フェーズ III	申請	承認
レンビマ	キイトルーダ® との併用*1	肝細胞がん 1L TACE*2併用 LEAP-012試験	LPI*3達成				
		食道がん 1L LEAP-014試験					
		胃がん 1L LEAP-015試験	LPI達成				
		メラノーマ 2L LEAP-004試験	LPI達成				
		バスケット型試験*4 LEAP-005試験					
		頭頸部がん 2L LEAP-009試験					
MORAb-202*5/FZEC ADC*6	非小細胞肺がん						
	卵巣がん、腹膜がん、卵管がん						
	子宮内膜がん、卵巣がん	フェーズ I / II 試験					
E7386*7 CBP/βカテニン阻害剤	固形がん キイトルーダ®との併用	フェーズ I b / II 試験					
	肝細胞がん、固形がん レンビマとの併用						
	固形がん						
BB-1701*8 ADC*6	乳がん						
E7090 FGFR1,2,3阻害剤	胆道がん						
	乳がん						
H3B-6545 ERα阻害剤	乳がん	フェーズ I / II 試験					
E7389-LF*9 リポソーム製剤	固形がん	フェーズ I b / II 試験					
	固形がん ニボルマブとの併用	フェーズ I b / II 試験					
E7130*10 次世代がん微小環境改善薬	固形がん						
E7766 STING作動薬	固形がん						
スプライシングモジュレーター	固形がん						
標的タンパク質分解誘導剤	固形がん						

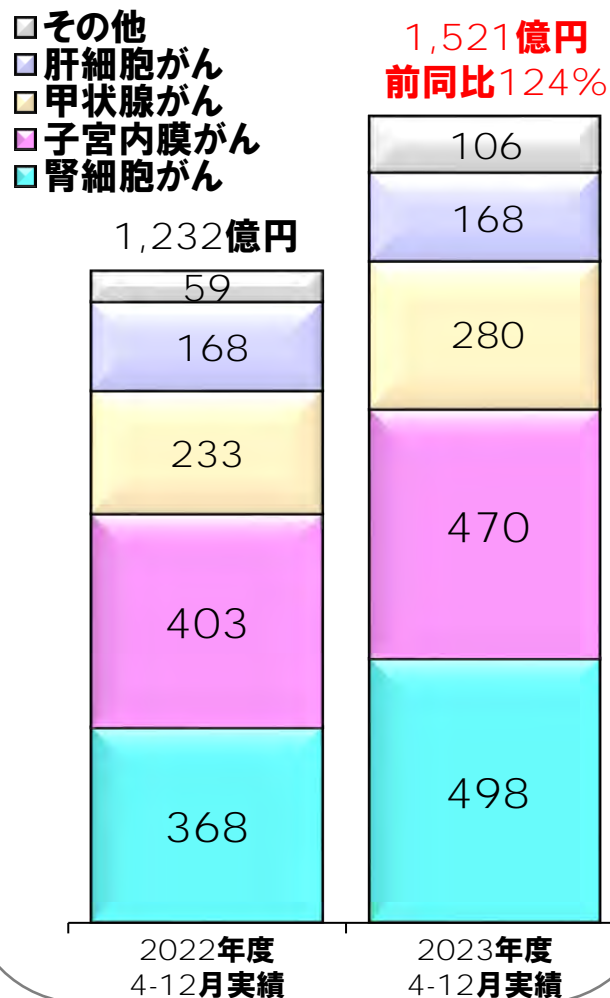
キイトルーダ®はMerck & Co., Inc., Rahway, NJ, USAの子会社であるMerck Sharp & Dohme Corpの登録商標。キイトルーダ®との併用療法: Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USAの子会社であるMSD International GmbHとの提携による臨床試験に基づき適応取得をめざす。1L:ファーストライン、2L:セカンドライン *1 頭頸部がん 1Lを対象としたLEAP-010試験は中止、子宮内膜がん 1Lを対象としたLEAP-001試験、非小細胞肺がん 1Lを対象としていたLEAP-006試験、および非小細胞肺がん 2Lを対象としていたLEAP-008試験は主要評価項目未達 *2 Transcatheter Arterial ChemoEmbolization *3 Last Patient In *4 胃がん、大腸がん、膠芽腫、胆道がん、脾臓がん *5 プリストル マイヤーズ スクイブとの共同開発品。一般名:farletuzumab ecteribulin *6 Antibody Drug Conjugate 抗体薬物複合体 *7 株式会社 PRISM BioLabとの共同創出品 *8 Bliss Biopharmaceutical (Hangzhou) Co., Ltd.と戦略的提携に向けたオプション権を有する共同開発契約を締結 *9 小野薬品工業株式会社との共同開発 *10 ハーバード大学との共同創出品

レンビマ 更なる成長を継続

レンビマ リージョン別
売上収益の推移 (億円)



レンビマ アメリカスでの
適応別売上収益の推移*4 (億円)



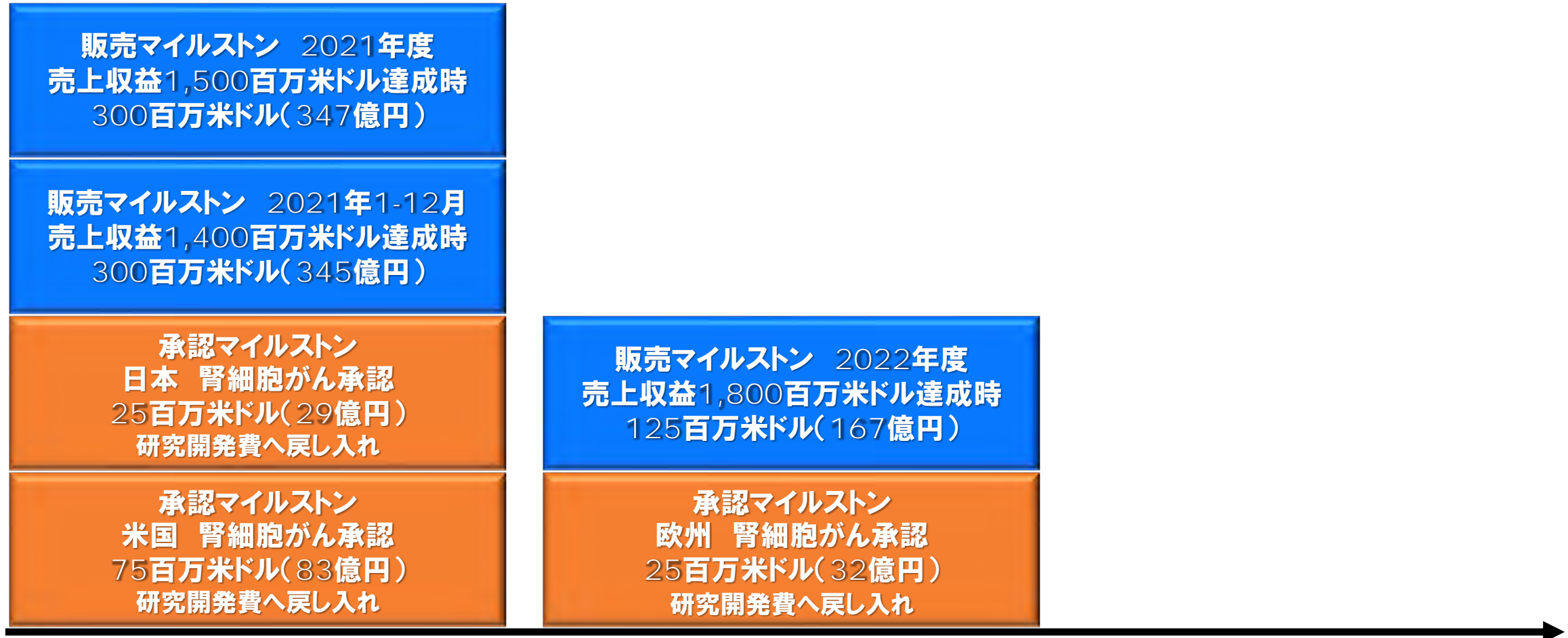
2023年度通期見通し達成に向けて
順調に進行(進捗率76.2%)

キイトルーダ®との併用による
腎細胞がんと子宮内膜がん適応が
牽引し2桁成長を達成

- 最大市場の米国、および日本、ドイツでは、腎細胞がんと子宮内膜がんが成長を牽引し、ともに新規患者様数トップシェア*5を継続
- 腎細胞がんでは、完全奏効率をはじめとする有効性で競合優位性を有し、子宮内膜がんでは、非化学療法レジメンとして有効性のみならず良好な安全性によるポジショニングを確立
- 競合品が陸續と承認される中、甲状腺がん及び肝細胞がんがそれぞれ継続して成長、維持

キイトルーダ®はMerck & Co., Inc., Rahway, NJ, USAの子会社であるMerck Sharp & Dohme Corpの登録商標。共同開発によりレンビマとの併用による適応取得をめざす。

*1 北米 *2 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア *3 韓国、台湾、インド、アセアン、中南米等 *4 各適応症の売上収益は社内推計 *5 IO(Immuno-Oncology)-TKI(Tyrosine Kinase Inhibitor)併用療法内におけるシェア。社内推計



2021年度実績
700百万米ドル(803億円)

2022年度実績
150百万米ドル(199億円)

2023年度実績

将来見通しに関する注意事項

- 本資料中の目標数値はあくまで中期的戦略、めざす方向性、ビジョン等を示すものであり正式な業績予想ではありません。正式な業績予想は東京証券取引所規則に基づく年次決算短信での開示をご参照ください。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基くものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 当社の連結財務諸表は国際会計基準(IFRS)にて開示しています。